

小池晃次（2017年度日本英語学会新人賞受賞）

このたびは、私の拙論である“The Development of Negative-Initial Constructions in the History of English”に2017年度日本英語学会新人賞を授与していただき、誠に光栄に存じます。本論文は否定辞 *ne* や *not* で始まる構文の衰退と消失を句構造の競合という考えを使って分析し、その競合関係を支持する証拠を史的コーパスから検出した論文です。こうした理論的提案や経験的観察の根底において私の恩師である大室剛志先生と田中智之先生の教えが支えとなっています。両先生方に心より感謝し、この受賞を以って多少なりとも恩返しできたのであれば幸いです。それから、本論文の審査と編集におきまして日本英語学会編集委員会の先生方には多大なお時間を割いていただきました。とりわけ、黒川尚彦先生には参考文献の一字一句に至るまでご校閲を賜りました。これらの先生方のお力添えがあったからこそ、私は本論文を書きあげることができたことを強調させていただきます。

私は今年度の4月から大学教員として働き始めたばかりで、慣れない環境の下で予期していなかった量の仕事を前にして困憊しそうなときがあります。それでも、講義で向き合う学生さんたちの純粋さに感化されながら、しばしば初心に立ち返っています。今後も、私自身が学生時代にそうであったように、「おっ、おもしろいな！」という研究のなかで得られる高揚感を大切にしながら、実直に研究活動を続けていきたいと存じます。